

建物がれき200万ト超え

大震災3週間、処理は難題

東日本大震災から3週間。全壊、半壊、一部破損した建物は15万1187棟（総務省消防庁調べ）に達し、建物のがれきの量は現時点の政府推計で2千万ト

を超え、阪神大震災の14

00万トを上回ることが31

日、分かった。壊れた道路

や橋などを加えると、がれ

きは3千万トに達する可能

性もあり、処理が大きな課

題となりそうだ。

がれきの量は被災自治体

からの報告を基に推計。宮

城県はがれき総量が150

0万1800万ト、岩手

県は380万トに上るとの

見通しを明らかにしてい

る。福島第1原発周辺の避

難指示区域を抱える福島県

などでは被災実態が判明し

ていないが、相当量に上る

とみられる。

また、崩壊した道路や

橋、鉄道などの公共インフ

ラや、津波で流された自動

車、船舶などのがれきは今

回の推計に含んでおらず、

最終的な総量の確定には時

間がかかる見通し。阪神大

震災の建物やそれ以外のが

れきを含む総量は2千万ト

だった。

政府は、がれき撤去の費

用を全額国費で負担するこ

とを既に決め、2011年

度補正予算で対応する方

針。阪神大震災の約350

0億円を大きく上回るのは

確実で、財源確保に向け調

整する。

行方不明者の捜索や復旧

作業のため撤去したがれき

を一時保管する仮置き場の

確保も急務だ。自治体が調

達する空き地や公有地だけ

では足りない恐れがあり、

政府は、港湾周辺の埋め立

て予定地や農地などを活用

できないか検討するほか、

周辺自治体での受け入れも

探る方針だ。



集積場に集められたがれき 31日午後、宮城県女川町宮ヶ崎で